

# 東京農業大学稲花小学校

学校だより【2022年3月7日】第116号



## 保護者会(オンライン)開催

3月2日(水)には1年生、4日(金)は2年生、そして3日(木)には3年生の保護者を対象に、保護者会が行われました。ぜひ保護者会を学校で、と願っていたところですが、新型コロナウイルス感染防止の観点からこれは断念し、オンラインでの実施となりました。また、1つの学級のみは感染防止措置により、保護者会(オンライン)を1週間延期させていただきました。

各日、全体会の後、学級別に担任との懇談を行いました。全体会では、本校における感染防止策や学級閉鎖の状況についてご説明し、保護者のご理解とご協力に感謝するとともに、学年ごとの特性を含めて保護者と学校でともに手を携えていきたい点について校長よりお話ししました。各学年に共通することとして、学校を中心にした生活を心がけてほしいこと、復習を中心として学校での学びを大事にしてほしいこと、子どもたちのやさしい心やすなおな心が失わないよう子どもたちを温かく見守りたいことについて、お願いしました。

4月からの新年度ではぜひ、保護者の皆様と対面できることを期待しています。

## お兄さん、お姉さんに続け

3月1日(木)は隣接する東京農業大学第一高等学校(一高)の卒業式。お天気にも恵まれ、保護者の皆様も参加されての卒業式の様子が、小学校からもうかがわれました。その日、小学校と高等学校を隔てるフェンス越しに、子どもたちから卒業生に向かって、おめでとう！の声をかけていたと教員から報告を受けたのです。卒業生もこれににっこりと応えてくれたようです。お隣の学校のお兄さん、お姉さんの卒業をうれしく思う気持ちが、子どもたちのお祝いの言葉になったのでしょう。

通学途中で具合が悪くなった本校の児童を助けてくれた一高生・中等部生もいます。落とし物を届けてもらったこともあります。逆に本校の児童が一高生の落とし物を拾って届けたところ、わざわざお礼に来てくれたこともあります。思い返すと、2019年4月に行われた本校第一回の入学式には、一高・中等部の合唱部が本校の校歌である「東京農業大学稲花小学校の歌」を美しい合唱で響かせてくれました。

本校の子どもたちには、憧れのお兄さん、お姉さんに続いて中等部、第一高等学校で学んでほしいものです。

## 法人の記念日

3月6日は法人創立記念日です。この記念日を前に、子どもたちに榎本武揚公について話をする授業が昨年度から行われるようになりました。今年度は、1年生は校長が、2年生と3年生については、担任が担当することになり、3月4日(金)は校長の担当日でした。

1891年(明治24年) 3月6日は、徳川育英会を母体とした私立育英農科が設立され、管理長に榎本武揚公が就任した日です。子どもたちには榎本先生と呼ばれる榎本公ですが、この榎本先生が生きていれば何歳かな、という計算にもチャレンジしました。釜次郎という幼名のために、友だちにからかわれた話から、どうして釜次郎、兄は鍋太郎という幼名だったのか、皆で考えました。さらに、オランダに留学した榎本先生オランダ語で書いた手紙にある「冒険は最良の師」から冒険心の育成が本校の教育の理念となったことも説明しました。最後に、榎本先生のすごいところを考えました。大学を作ったのはすごい、という子どももいました。飛行機も、ネットも無い時代に遠い国に勉強にいった榎本先生の気持ちを考え、すごいと思った子どももいました。五稜郭の戦いで敗れて牢屋に入れられたのに、どうして出られたのか、不思議に思った子どももいました。ここから先は、子どもたちそれぞれが、本などで学びを深めていくことでしょう。

## 修了式まで

学級閉鎖になっている学級もありますが、延期になった学習発表会を修了式前日にぜひとも実施したいところです。修了式まで、感染防止とともに、子どもたちの心身がストレスなく過ごせるよう、さらに注意深く指導をしていく必要があると考えています。そんな中ですが、大学のキャンパス内ではフキ臺が顔を出し、小学校でもフクジュソウの明るい黄色が目を引きまます。2年生の植えたチューリップも芽が出ています。一高・中等部では河津桜が満開になりました。子どもたちと一緒に、近づく春を喜びたいと思います。



チューリップ



フキノトウ